

## 資料5 除染効果評価に必要な収集すべき情報

多くのデータが集まれば、除染効果評価として、事前に除染目標を設定できる可能性がある。以下にその考えを示す。

除染の効果は、同じ工法でも仕様、除染対象物の材質等の状況で異なる。そのため、除染工法の目標値は、一つの工法でも、除染方法の仕様、除染対象物の材質等ごとに設定されることが必要となる。

現状では、高圧水洗浄1つとっても除染方法の仕様が統一されていない状況であるため、除染仕様ごとの期待すべき低減率（除去率）、DF、DRRF のデータが不足しており、本手引書作成段階では具体的な数値を提案することができない(除染効果を適切に評価できない)状況となっている。

除染効果を適切に評価するためには、今後実施する除染工事において、除染の仕様、除染対象物の材質等の状況を明確にしたうえで得られた低減率（除去率）、DF、DRRF を蓄積していき、目標値を設定していくことが必要である。

### (1) 収集すべき情報

除染効果を適切に評価するために、収集すべき項目として以下の事項があり、今後除染工事を実施するにあたって、これらの情報を収集する。

- ① 除染工法の仕様
- ② 除染対象物の状況

【解説】

- ① 除染効果に影響にあると考えられる仕様を整理する。除染工法ごとの整理する仕様を資表 5-1 に示す。

資表 5-1 除染工法と仕様

除染工法	仕様	備考
高圧水洗浄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吐出圧力</li> <li>・流量</li> <li>・噴射ノズルからの噴射角度</li> <li>・単位面積当たりの使用水量（除染回数）</li> <li>・噴射ノズル先端と除染対象物との距離</li> <li>・噴射ノズル先端と除染対象物が成す角度</li> </ul>	
拭き取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の材質</li> <li>・中性洗剤仕様に有無</li> <li>・1回の洗浄範囲</li> <li>・単位面積当たりのふきとり回数</li> </ul>	
ブラッシング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の材質</li> <li>・1回の洗浄範囲</li> <li>・単位面積当たりのふきとり回数</li> </ul>	
ブラスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラスト材の材質</li> <li>・ブラスト圧</li> <li>・投射量</li> <li>・作業速度</li> </ul>	

- ② 除染効果に影響があると考えられる以下に項目について除染対象物の状況を整理する。
- ・ 除染対象物の材質
  - ・ 除染対象物の表面の状況（クラック有無、有りの場合：クラック幅、間隔、深さ）
  - ・ 除染対象物の地点の 1m 空間線量、1 cm 空間線量